

令和6年度 北区立第四岩淵小学校 全国学力学習状況調査結果分析

＜6年生＞

	結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
国語	<ul style="list-style-type: none"> 正答状況としては、全国平均、東京都平均を上回っていました。 正答数8～10問の児童が多く、主に「漢字の書き取り」問題および「取材メモをもとにして書く」問題での誤答が目立ちました。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字については、文字、そして文章を鉛筆でしっかり書く体験を重ねる必要があります。 メモをとること、それを活用することについても、書くことの経験をより積ませることで力が付くと考えられます。 GIGA 端末の導入で、キーボード入力で文を書く機会も増えていますが、鉛筆に比べ校正する機会が少なくなる傾向があるため、直接書いて、文字や言葉を習得する時間の確保が重要であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> GIGA 端末と紙に書く活動の授業における役割を明確にします。修正が容易な端末では、文章の構成や発想をまとめるなどの役割(下書き)を行い、清書は紙に鉛筆で行うようにし、正確な文字や言葉を意識して書かせる活動を、国語科をはじめ他教科のまとめ等でも行っていきます。 メモを取る力を付けるため、日常的に聞き取ったことを短くまとめ、メモを取る活動を増やし、要点を捉えられるようにする活動を日常的に取り入れます。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 正答状況としては、全国平均、東京都平均を上回っていました。 正答数13～14問の児童が多く、主に「速さ」に関する問題(時間を求める、速度を分速に換算する)での誤答が目立ちました。 	<ul style="list-style-type: none"> 「速さ」を含めた「単位量あたりの大きさ」に関する問題は、3つの数値の相互関係の正確な把握が必要です。数直線図などを活用する習慣を身に付けさせ、視覚的に3つの数値を関連付け理解できる活動を継続することが必要となります。 小数の乗除計算での誤答傾向もやや目立つため、筆算や小数点を丁寧に書かせ、正確に計算させることも重要と考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文の数値にのみ着目して直感で解こうとし、解答のみを書こうとする児童が見られるため、ノート提出と指導をこまめに行い、そのような児童に対し数直線上で数量の関係を理解させ、解答に至る道筋や方法を書かせる個別指導を継続していきます。 また、学級全体に対して、解答を正確にすることのみでなく、思考した過程を数学的な表現方法で書き表すことについて評価するような授業を行っていきます。